

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は図書館法に定める、司書免許取得に必要な科目の、甲群 (必修) の科目に対応する。

2 科目の概要

本科目は、生涯学習や社会教育の生まれた背景を探りながら、情報化社会・高齢化社会の中で、この二者が果たす役割について理解し、併せて、これからの図書館に求められる新しい役割を考察することを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。「生涯学習」の概念について正しく理解することができる。我が国の生涯学習政策について認識を深める。これからの図書館が担って行くべき課題を捉えることができる。生涯学習の将来的課題の意識を醸造する。

内容

- 1 生涯学習・生涯教育論の歴史的展開
- 2 生涯学習の実際 埼玉県内における生涯学習の展開事例
- 3 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
- 4 生涯学習振興政策の立案と推進
- 5 教育の原理と我が国における社会教育の意義・発展・特質
- 6 社会教育行政の意意・役割と一般行政との連携
- 7 自治体の行財政制度と教育関連法規
- 8 成人学習に関するハンブルク宣言と諸外国における生涯学習の展開事例
- 9 社会教育の内容・方法・形態 (1) アンドラゴジー論とアウトリーチの方法
- 10 社会教育の内容・方法・形態 (2) 成人における知的能力の変化とエイジング
- 11 社会教育の内容・方法・形態 (3) 高齢化・情報化の社会環境
- 12 学習への支援と学習成果の評価と活用
- 13 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
- 14 社会教育指導者の役割
- 15 まとめ

評価

小テスト50：筆記試験50の比率で評価 (100点満点) し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】 テキストは使用せず、毎回の授業でプリントを配布する。

【参考図書】 参考図書は、授業中に随時紹介する。

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館は長い歴史の中で人間の知的・創造的活動と深いかわりを持ち続けてきた。本科目は図書館司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の意義や役割をはじめ、歴史、利用者、司書、類縁機関等、館種別図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。すなわち、今後履修する全ての図書館関連科目において基盤となる科目である。

科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。そして、図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、場合によって受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・ 図書館が置かれている社会的背景(歴史、制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・ 図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・ 図書館の未来について自分なりの考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：本科目の進め方
2	図書館の理念・社会的意義：図書館の構成要素と機能
3	図書館の種類と相互協力：類縁機関を含む
4	図書館の現状と動向：図書館の機能・役割を考える
5	知的自由と図書館
6	図書館司書の仕事(1)：司書の役割・業務モデル、専門性、資格・関係団体
7	図書館司書の仕事(2)：図書館サービスの種類・利用者のニーズ
8	情報リテラシー教育・図書館利用教育：「図書館」をどのように伝えるか
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の役割
11	公共図書館の機能と役割：図書館法規・行政・政策、地域社会と図書館
12	図書館の歴史：欧米の公立図書館、国内大学図書館等
13	公立図書館の成立と展開：戦後日本の公立図書館の歴史
14	図書館の未来：図書館の課題と展望
15	まとめ

評価

授業中・後の課題作成（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

塩見昇『図書館概論』新訂版，日本図書館協会，2008（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 1）

【参考図書】

- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会『図書館ハンドブック』第6版補訂版，日本図書館協会，2010
- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・日本図書館協会『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会，1973
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006（NHKブックス，1050）
- ・竹内慈『図書館のめざすもの』日本図書館協会，1997

その他参考図書は，授業中に紹介する。

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館は長い歴史の中で人間の知的・創造的活動と深いかわりを持ち続けてきた。本科目は図書館司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の意義や役割をはじめ、歴史、利用者、司書、類縁機関等、館種別図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。すなわち、今後履修する全ての図書館関連科目において基盤となる科目である。

科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。そして、図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、場合によって受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・ 図書館が置かれている社会的背景(歴史、制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・ 図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・ 図書館の未来について自分なりの考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：本科目の進め方
2	図書館の理念・社会的意義：図書館の構成要素と機能
3	図書館の種類と相互協力：類縁機関を含む
4	図書館の現状と動向：図書館の機能・役割を考える
5	知的自由と図書館
6	図書館司書の仕事(1)：司書の役割・業務モデル、専門性、資格・関係団体
7	図書館司書の仕事(2)：図書館サービスの種類・利用者のニーズ
8	情報リテラシー教育・図書館利用教育：「図書館」をどのように伝えるか
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の役割
11	公共図書館の機能と役割：図書館法規・行政・政策、地域社会と図書館
12	図書館の歴史：欧米の公立図書館、国内大学図書館等
13	公立図書館の成立と展開：戦後日本の公立図書館の歴史
14	図書館の未来：図書館の課題と展望
15	まとめ

評価

授業中・後の課題作成（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

塩見昇『図書館概論』新訂版，日本図書館協会，2008（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 1）

【参考図書】

- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会『図書館ハンドブック』第6版補訂版，日本図書館協会，2010
- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・日本図書館協会『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会，1973
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006（NHKブックス，1050）
- ・竹内慈『図書館をめざすもの』日本図書館協会，1997

その他参考図書は，授業中に紹介する。

科目名	図書館経営論		
担当教員名	西来路 秀彦、石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館学を建物に例えるなら「生涯学習」は、諸学にも人生にも土台であると言える。その土台上に「図書館経営論」は必須科目として「図書館概論」「図書館資料論」などと共に、総合的な図書館像の柱となり、壁や屋根となる。有機体のように機能する図書館を理解するには、その活動への「経営」の視点が必要である。図書館制度と政策、経営資源、施設、評価調査など個別要件で探る。

科目概要

現代図書館の歴史(必要な前肢)を振り返りながら、図書館業務における職員(館長)、制度、予算、施設、町おこし等の色々な面を検討していく。配布のプリントで流れとポイントを押さえていく。個別テーマの理解が、次のステップの土台となる連続性が高いので、続けて休むとレポート、テストに対応できなくなる恐れがある。履修制度が変更されるので、履修に努力をしてほしい。

学修目標

現代の公共サービスは、財政収縮と行革の大波の中にある。非営利組織である図書館も、利用者の多様な要求を満たし、またその発達を支える社会システムであり続ける必要がある。その為に図書館の持つ諸資源をより効果的に運用し、その成果をテコに条件そのもの(行政の諸条件等)をもさらに改善することが必要だ。このため、これまでなおざりにされがちな「経営」の視点から図書館活動を考え、基礎的知識を得る。

内容

- ・社会の変化・発展に対応できたか、できなかったかの分岐の事例を跡づけ、評価していく。
- ・配布のプリントを中心に授業を進めるが、新資料の取り入れによって一部変更があり得る。
- ・授業の各回の理解が、後の展開の基礎となる。欠席が多いと課題・試験に十分対応できなくなる。

1	ガイダンス
2	図書館経営の意味と色々な図書館
3	図書館サービスの歩み(戦後)
4	図書館サービスの前線(第一線)
5	根拠法と関係法規
6	各種法規と類縁機関
7	図書館の政策・体制
8	経営と図書館協力(1)
9	経営と図書館協力(2)
10	経営管理と図書館振興
11	建築と施設(1) 計画と配置
12	建築と施設(2) 設備と空間
13	サービス計画と評価
14	街づくりと図書館経営

評価

- ・レポート・小レポート30%、筆記試験70%。60点以上合格。
- ・再試験は基本的になし。入院等による追試験は事情による。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考：高山正也[ほか]共著『図書館経営論 改訂』樹村房 2011年

科目名	図書館サービス論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：情報技術の進展により図書館が提供するサービスにも質・量ともに変化が伴う中で、図書館は利用者のニーズに応じて、さまざまなサービスが行われている。本科目では、図書館サービスの構造、意義等の概説と特徴的な図書館サービスの事例を紹介し、将来求められる図書館サービスのあるべき姿を考える。

科目の概要：社会や利用者はどのような図書館サービスを求めているのか。他方で、図書館は社会の変化に伴い、どのようなサービスを提供しているのか。本科目では、図書館サービスの構造や意義・図書館サービスの事例を概説する。また、社会の変化に伴い、図書館サービスがどのように変化し、利用者のニーズに応じてきたのかを考察する。

学修目標：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し、意義と方法を説明することができる。
- ・各館種による図書館サービスの特徴や違い、利用者の要望を理解し、適したサービスを整理できる。
- ・図書館サービスに係る著作権の基礎的知識を理解する。
- ・近年の図書館サービスの課題を踏まえ、将来図書館に求められるサービスについて、自分の考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：図書館サービスとは何か？
2	図書館サービスの意義・種類
3	図書館サービスの変遷・歴史
4	図書館サービスとマネジメント：買い手の論理と売り手の論理
5	館種別の図書館サービス：図書館連携・ネットワークを含む
6	資料提供サービス（閲覧，貸出，予約等）
7	情報提供サービス（レファレンス，講座・セミナー等）
8	課題解決支援サービス
9	利用対象に応じたサービス（1）：児童サービス，YAサービス
10	利用対象に応じたサービス（2）：高齢者，障がい者，多文化サービス
11	図書館サービスの評価
12	図書館サービスと著作権
13	図書館の利用空間の創造：利用者へのコミュニケーション，図書館の広報活動を含む
14	図書館サービスの未来を考える
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30%），授業への参画・発表の姿勢（20%），試験（50%）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・小田光宏『図書館サービス論』日本図書館協会，2010（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 3 ）

【参考書】

- ・大串夏身『課題解決型サービスの創造と展開』青弓社，2008（図書館の最前線， 3 ）
- ・渡部幹雄『図書館を遊ぶ』新評論，2003
- ・柳与志夫『千代田図書館とは何か』ポット出版，2010
- ・田村俊作『情報探索と情報利用』勁草書房，2001

その他は授業中に提示する。

科目名	情報サービス概説		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館における情報サービスについて、レファレンスサービスを中心に置きながら説明する。他の司書養成課程科目とも密接に関連している科目だが、特に情報サービス演習とは関連性が強い。授業については、その内容を授業時に理解することに努めると共に、復習を励行することを望む。

内容

1	情報サービスの定義
2	情報サービスの種類
3	レフェラルサービスとカレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの内容
5	レファレンスサービスのプロセス
6	レファレンスコレクションの種類
7	冊子体情報源と電子情報
8	一次資料と二次資料
9	事実解説型の情報源
10	案内指示型の情報源
11	電子情報サービスの種類
12	レファレンスサービスの質問事例
13	レファレンスサービスの評価
14	情報サービスの管理
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。プリントを配布する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的 (人的) 援助 : personal assistance と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助 : instruction for library use に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス (レファレンスサービス) の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・レファレンスサービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスの意義とライブラリアンの活動
2	レファレンスサービスのプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習 (1)
7	検索結果の発表 (1)
8	レファレンス課題による検索実習 (2)
9	検索結果の発表 (2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	レファレンスサービスと他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要なに応じて指示する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的(人的)援助: personal assistanceと、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助: instruction for library useに大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス(レファレンスサービス)の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・レファレンスサービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスの意義とライブラリアンの活動
2	レファレンスサービスのプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習(1)
7	検索結果の発表(1)
8	レファレンス課題による検索実習(2)
9	検索結果の発表(2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	レファレンスサービスと他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的 (人的) 援助 : personal assistance と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助 : instruction for library use に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス (レファレンスサービス) の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・レファレンスサービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスの意義とライブラリアンの活動
2	レファレンスサービスのプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習 (1)
7	検索結果の発表 (1)
8	レファレンス課題による検索実習 (2)
9	検索結果の発表 (2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	レファレンスサービスと他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報の収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索の意義
2	情報検索の基礎：データベース構造・種類と検索戦略の意義
3	図書館が構築した情報源ガイド（リンク集）・ポータルの事例
4	OPACの検索：図書の検索
5	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
6	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
7	雑誌記事の検索
8	電子ジャーナルの検索
9	海外雑誌記事の検索
10	新聞記事の検索
11	検索語の選択と性質，総合的な文献検索演習
12	人物，企業，団体情報の検索
13	法律，統計，科学技術情報の検索
14	インターネット上の様々な情報源：サーチエンジン・アーカイブ情報等
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・学術情報探索マニュアル編集委員会『理工医薬系学生のための学術情報探索マニュアル』丸善，2006
- ・図書館経営支援協議会『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド』日本図書館協会，2005
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報の収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索の意義
2	情報検索の基礎：データベース構造・種類と検索戦略の意義
3	図書館が構築した情報源ガイド（リンク集）・ポータルの事例
4	OPACの検索：図書の検索
5	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
6	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
7	雑誌記事の検索
8	電子ジャーナルの検索
9	海外雑誌記事の検索
10	新聞記事の検索
11	検索語の選択と性質，総合的な文献検索演習
12	人物，企業，団体情報の検索
13	法律，統計，科学技術情報の検索
14	インターネット上の様々な情報源：サーチエンジン・アーカイブ情報等
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・学術情報探索マニュアル編集委員会『理工医薬系学生のための学術情報探索マニュアル』丸善，2006
- ・図書館経営支援協議会『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド』日本図書館協会，2005
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報の収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索の意義
2	情報検索の基礎：データベース構造・種類と検索戦略の意義
3	図書館が構築した情報源ガイド（リンク集）・ポータルの事例
4	OPACの検索：図書の検索
5	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
6	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
7	雑誌記事の検索
8	電子ジャーナルの検索
9	海外雑誌記事の検索
10	新聞記事の検索
11	検索語の選択と性質，総合的な文献検索演習
12	人物，企業，団体情報の検索
13	法律，統計，科学技術情報の検索
14	インターネット上の様々な情報源：サーチエンジン・アーカイブ情報等
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ，6）

【参考書】

- ・学術情報探索マニュアル編集委員会『理工医薬系学生のための学術情報探索マニュアル』丸善，2006
- ・図書館経営支援協議会『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド』日本図書館協会，2005
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報の収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索の意義
2	情報検索の基礎：データベース構造・種類と検索戦略の意義
3	図書館が構築した情報源ガイド（リンク集）・ポータルの事例
4	OPACの検索：図書の検索
5	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
6	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
7	雑誌記事の検索
8	電子ジャーナルの検索
9	海外雑誌記事の検索
10	新聞記事の検索
11	検索語の選択と性質，総合的な文献検索演習
12	人物，企業，団体情報の検索
13	法律，統計，科学技術情報の検索
14	インターネット上の様々な情報源：サーチエンジン・アーカイブ情報等
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・学術情報探索マニュアル編集委員会『理工医薬系学生のための学術情報探索マニュアル』丸善，2006
- ・図書館経営支援協議会『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド』日本図書館協会，2005
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	図書館資料論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな資料が選択・収集・整理・保存（管理）され、各館独自のコレクションが形成され、利用者に情報が提供されている。本科目では、図書館コレクションを形成しているさまざまな図書館情報資料の種類、特質、流通等を広く概説し、図書館が情報資源を選択・収集・整理・保存（管理）する意義を考察し、利用者への提供方法をデザインする。

科目の概要

図書館には、どのような資料が収集され、どのような観点でコレクションが形成されているのか。そのためにも、図書館情報資源の特質を知り、図書館の館種や利用者のニーズも踏まえる必要がある。本科目では、図書館業務に必要な図書館情報資源の類型と特質、電子資料やネットワーク情報資源の動向を概説する。そして、コレクション形成を具体的に考え、利用者へ提供する方法をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館資料の種類や特徴、電子資料やネットワーク情報資源の動向を理解し、司書が実際に図書館資料をどのように選択・収集しているのか、利用者への効果的な提供方法を理解する。
- ・ 各図書館のコレクションを評価し、学問分野別（人文・科学技術等）に情報資源の特性を理解する。

内容

1	オリエンテーション、図書館情報資源の意義
2	図書館資料とは何か、図書館資料の歴史
3	図書館資料の種類と特質（1）：印刷資料・非印刷資料
4	図書館資料の種類と特質（2）：地域資料・灰色文献 他
5	電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特質
6	出版流通システム、書店と図書館業務の関係
7	自然科学・科学技術分野の情報資源の特性
8	人文・社会科学分野の情報資源の特性
9	知的自由と図書館資料
10	コレクション形成と意義
11	資料の選択と収集方針
12	図書館司書の仕事（1）：資料の選択・収集の実際
13	図書館司書の仕事（2）：資料の管理（装備・補修）・保存・展示・排架
14	コレクション形成の評価
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

・馬場俊明『図書館資料論』日本図書館協会，2008（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 7）

【参考書】

・三浦逸雄，根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣，1993（講座図書館の理論と実際， 2）

・日本図書館協会図書館の自由委員会編『「図書館の自由に関する宣言1979年改訂」解説』第2版，日本図書館協会，2004

・安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』勁草書房，2006（図書館の現場， 5）

その他，授業中に提示する。

科目名	専門資料論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな館種があり、さまざまな主題領域のレファレンスサービスに持続的に応えている。すなわち、図書館司書は、常に幅広い主題分野にアンテナを張り、図書館サービスを創造する必要がある。本科目では、「図書館資料論」「レファレンスサービス演習」等を補い、図書館司書として必要な人文科学、社会科学、自然科学・技術等の幅広い分野における知の構造や資料の特性を理解する。

科目の概要

さまざまな学問領域、図書館、図書館資料を発見し、専門資料を活用する利用者の目線に立って研究活動の特徴や学術情報全体の流れを概観し、人文科学、社会科学、自然科学・技術等の研究活動で必要となる専門資料の特性や違いを受講生とともに考える。

学修目標

教科書とともに、授業時の説明を理解するように心がけること。さらに、受講者同士の議論やミニワークショップを通して、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・学術情報活動を支える図書館を想定し、学術情報の全体の流れを理解する。
- ・公共図書館でのレファレンスサービス、大学・専門図書館における研究支援のために不可欠な各分野で使用される代表的な資料、情報源を知る。
- ・興味のある主題領域以外の各分野へのアプローチ方法を知る。

内容

1	オリエンテーション：図書館司書課程における本授業の位置づけ
2	さまざまな学問分野と専門資料の種類
3	さまざまな研究の方法（アプローチ）と活用・生産される専門資料の特徴
4	一次情報と二次情報の違い：データベース、電子ジャーナル等の電子媒体資料
5	学術情報の特徴
6	自然科学・技術分野における情報利用
7	人文・社会科学分野における情報利用：企業等の組織内での情報流通も含む
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中の課題作成（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・三浦逸雄，野末俊比彦『専門資料論』新訂版，日本図書館協会，2010（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 8 ）

【参考図書】

- ・山崎久道『専門図書館経営論』日外アソシエーツ，1999
- ・海野敏，影浦峯，戸田慎一『学術情報と図書館』雄山閣，1999（講座図書館の理論と実際， 9 ）
- ・学術情報探索マニュアル編集委員会『理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル』丸善，2006
- ・図書館経営支援協議会『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド』日本図書館協会，2005

科目名	資料組織論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解する。それにより図書館情報資源の組織化に関する理論と技術を理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料及びネットワーク情報資源により構成される図書館情報資源の組織化について、その理論と技術を解説する。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などの角度から解説する。

内容

1	情報資源組織化の意義と理論
2	書誌コントロールと標準化
3	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (1)
4	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (2)
5	主題分析の意義と考え方
6	主題分析と分類法 (1)
7	主題分析と分類法 (2)
8	主題分析と索引法 (1)
9	主題分析と索引法 (2)
10	書誌情報の作成と流通
11	書誌情報の提供について
12	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13	多様な情報資源の組織化 (1)
14	多様な情報資源の組織化 (2)
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】田窪直規編『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ9、樹村房)

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	資料組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。また今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって資料組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・「資料組織論」を履修してあること。
- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、資料組織化業務の基礎を習得する。
- ・演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

< 前期：目録法 >

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

集中化・共同化による書誌データ作成

ネットワーク情報資源のメタデータ作成

まとめ

< 後期：分類法 >

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC)』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ；10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	資料組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。また今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって資料組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・「資料組織論」を履修してあること。
- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、資料組織化業務の基礎を習得する。
- ・演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

集中化・共同化による書誌データ作成

ネットワーク情報資源のメタデータ作成

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC) 』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目のねらい

図書館司書資格を取得したい学生に向けての必修科目である。公共図書館に不可欠なサービスとして位置づいている児童図書館サービスについて解説する。

児童図書館サービスとは、児童奉仕とも呼ばれ、子どもを対象として、児童図書館の目的を達成する為に行われる仕事全般を指している。子どもの利用者に向かって直接行うサービスのみでなく、管理運営、施設の環境整備、資料の選択収集、さまざまなサービスの企画・遂行、館外との協力・連携、さらにこれらサービスの広報活動までが含まれる。以上のような仕事を理解することをねらいとする。

科目の概要・到達目標

子どもへの図書サービスの特質性、重要性を、子どもの発達ならびに学習の見地から解説する。乳幼児に向けたブック・スタートから、思春期のヤング・アダルトに向けたサービスまで、児童資料を紹介しながら具体的に言及していく。また、子どもの年齢や興味関心による児童資料の提供の仕方を、紙芝居、読み語り、ブック・トークなどの演習を交えて指導する。学校教育場面のみならず家庭や社会生活場面での子どもと本との関わり合い方を視野に入れて、読書による人間教育について深く洞察することができる専門性を伝達したい。

内容

授業計画

- 第1回 子どもにとって読書とは何か
- 第2回 子どもの認知発達と読書能力
- 第3回 子どもの読書活動の歴史 (児童図書館の歴史)
- 第4回 児童図書館の見学
- 第5回 児童資料の種類と選書規準
- 第6回 紙芝居の選び方について
- 第7回 紙芝居の演じ方
- 第8回 絵本の選書について
- 第9回 絵本の読み方
- 第10回 (狭義の) 児童文学の選書について
- 第11回 読み語り、ブック・トーク、ストーリー・テリングの仕方
- 第12回 ヤング・アダルト文学の選書について
- 第13回 学習支援としての児童図書館サービス
- 第14回 児童図書館サービスの意義と実際の活動 (地域・家庭・学校との連携・協力など)
- 第15回 児童図書館員の専門性

評価

授業への取り組み方 20%、レポート成績 80% で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『改訂 児童サービス論』 中多泰子編 樹村房

科目名	児童サービス論		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

公共図書館における児童サービスは、多くの場合子どもが初めて受ける図書館サービスであり、成人を対象にしたサービスとは異なる固有の使命と方法をもっている。その活動は児童の成長発達に役立ち、彼らの精神生活を豊かにする。それは、将来の良き図書館利用者を育成する上でも重要な意味をもっている。また、中学・高校の世代を中心とする、いわゆるヤングアダルトの読書離れは著しく、危機的な状況に至っている。これらヤングアダルトに対する図書館サービスは、児童サービスに比べると、まだまだ未発達であり、児童と成人の中間にあって置き去りにされているきらいがある。

本講では児童サービス、およびヤングアダルトサービスのもつ重要性について認識を深め、固有の活動内容、方法についての知識と技術を体得することを目指す。

学修目標

- ・ 児童（乳幼児からヤングアダルトまで）サービスの成立過程及びその意義・役割・特性を理解する。
- ・ 児童資料の種類とその特性を理解する。
- ・ 児童図書館の運営・施設・設備のあり方を学ぶ。
- ・ 児童サービスの実務・技術・方法を体得する。
- ・ 乳幼児サービス・ヤングアダルトサービスの意義と具体的な展開方法を体得する。
- ・ 児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題を考える。

内容

1	児童サービスの意義
2	児童図書館員の役割
3	児童サービスの成立と変遷
4	児童サービスの現在
5	児童資料の種類と特性
6	児童資料の収集と管理
7	児童図書館の運営
8	児童図書館施設・設備
9	児童サービスの内容
10	児童サービスの実務
11	児童サービスの技術と方法
12	乳幼児サービスの意義と展開（ブックスタートを含む）
13	ヤングアダルトサービスの意義と展開
14	各種諸機関（地域の他の図書館・文庫・学校図書館等）との連携・協力のあり方
15	児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題

評価

授業の進行に応じて提出を求める小レポート40%、授業への参加姿勢とその態度20%、課題「理想の児童図書館」制作40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	図書及び図書館史		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

司書課程を学び始める学生に、人類の叡智はどのように表現され蓄積されてきたかを学ぶことで、人類の素晴らしさを感じ取ってもらいたい。

図書館は、メディアの進歩と社会との関わりのなかで発展し、形態を変えてきた。現在、図書館は大きな変革期にあるが、原点に立ち返り歴史を学ぶことで、現代社会において図書館が果たすべき機能と役割についても考えるきっかけとする。

- ・集中講義なので、各時間ごとに学んだ内容をまとめ提出することで、学習内容の確認を行う。
- ・一気に進むので、予め教科書を一読しておくこと。

内容

導入、文字及び記録媒体・印刷技術の歴史

古代の図書館：図書館の起源、アレクサンドリア図書館、古代ローマの図書館

中世の図書館：修道院図書館、大学図書館

近世の図書館（15～16世紀）：グーテンベルクの活版印刷術、ルネサンス時代の図書館

近世の図書館（17～18世紀）：啓蒙の時代、図書館思想、大衆読書の時代

近代の図書館（19世紀）：貸本屋・会員制図書館、公共図書館、国立図書館、各館種・機能の確立

20世紀の図書館：文献生産量の増大化、国内・国際図書館協力、情報化社会の到来、電子図書館

～ 日本の図書館の歴史：古代の図書館～現代の図書館

まとめ （時間の都合がつけば印刷の歴史を見学）

評価

学習内容のまとめ（提出物）を3割、試験を7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

寺田光孝編『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ 12）樹村房

プリント（授業のレジュメ）を毎回配布する。

科目名	資料特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館には、さまざまな館種があり、そして多様な資料が所蔵されている。本科目は、地域資料（郷土・行政資料を含む）や視聴覚資料等を取り上げ、各種資料の特徴、選択、収集、利用までのプロセスを考える。とりわけ、公立図書館における地域資料を中心に、特徴と具体的な資料構成を考察する。

科目の概要

各館種の図書館資料の中でも逐次刊行物、視聴覚資料、政府刊行物、灰色文献、電子資料の特徴を概説する。また、各館の特別コレクション（貴重書）の取り扱いについて、事例を踏まえながら資料保存の意義やデジタルアーカイブの実際をみる。そして、公立図書館における地域資料の種類や意義を踏まえたうえで、地域資料の構築・設計を具体的に行い、地域資料の今後の展望を考察する。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、場合によっては、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 逐次刊行物、視聴覚資料、政府刊行物、灰色文献の特徴を理解すること。
- ・ 資料保存の意義とデジタルアーカイブの方法と意義を理解し、図書館の具体的事例に触れること。
- ・ 電子資料の種類と特徴を理解し、どのような電子資料が存在しているかを具体的に把握すること。
- ・ 公立図書館の地域資料の意義と種類を理解し、地域資料の構築と設計をデザインできること。

内容

1	オリエンテーション：図書館司書課程における資料特論の位置づけ
2	図書館資料の種類：各館種における資料の特徴
3	逐次刊行物の特徴
4	視聴覚資料の特徴
5	政府刊行物の特徴と意義
6	灰色文献の特徴と実際
7	資料保存の意義と実際
8	デジタルアーカイブの方法と実際
9	データベース・電子ジャーナル・電子書籍等の電子資料の特徴
10	公立図書館における地域資料（行政資料・郷土資料を含む）の種類と特徴
11	地域資料の収集・選択・管理・展示
12	公立図書館における地域資料の構築・設計（1）：地域資料構築
13	公立図書館における地域資料の構築・設計（2）：地域資料の構築・書誌の作成
14	公立図書館における地域資料の構築・設計（3）：書誌の作成
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（40％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・馬場俊明編著『図書館資料論』日本図書館協会，2008（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，7）

【参考書】

- ・三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』日本図書館協会，1999（図書館員選書，14）
- ・光斎重治編著『逐次刊行物』改訂第2版，日本図書館協会，2000（図書館員選書，5）

科目名	コミュニケーション論		
担当教員名	江藤 茂博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講座は、図書館司書課程のためのコミュニケーション論という科目の性格を持ちます。科目の概要としては、文字・本を中心としたメディアの歴史、メディアの盛衰と社会・文化との関係、テキストと現代文化、以上の三つを主題にしたコミュニケーション論が、各回の具体的内容それぞれに配置組み込まれています。基本的な問題意識は、情報伝達、コミュニケーション行為による社会文化の動態研究ということになりますが、ここでのメディアは書物中心に考えることにします。また、学問の領域としては、社会学と文学に重なる内容になることでしょう。

第一回～第三回 メディア史 第四・五回 20世紀のメディア

第六回～第十回 さまざまなメディアと現代社会 / 学校・コンビニ・モール・塾・図書館

第十一回～第十五回 メディアと解読 / 出版文化論・サブカルチャー研究・文学理論

学修目標としては、図書および図書館機能とそれらと社会文化との関係を理解してもらいたい。

内容

第一回 メディアの歴史と印刷技術

第二回 図書館メディアの歴史

第三回 表現メディアの歴史

第四回 20世紀前半のメディア史

第五回 20世紀後半のメディア史

第六回 学校メディア

第七回 コンビニメディア

第八回 モールメディア

第九回 塾メディア

第十回 図書館・文学館メディア

第十一回 表現メディアと解読理論 - 文学解読を事例として

第十二回 表現メディアと解読理論 - 文学解読を事例として

第十三回 表現メディアと解読理論 - 文学解読を事例として

第十四回 サブカルチャー研究

第十五回 まとめ

評価

授業に出席し、小テストで知識・理解を確認したいと思います。基本的には、平常点40パーセント + 小テスト二回各30パーセント、で評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書はありませんが、プリントは配布します。また、担当者による『20世紀メディア年表』双文社出版2009年、『オタク文化と蔓延するニセモノビジネス』戎光祥出版2008年などを、機会があれば手にとり参考にしてください。

科目名	情報機器論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 司書課程の「資料」「サービス」関係の授業で情報化関連の事柄が多く出てきます。したがって、情報とは何か、情報はいかなる手段 (メディア) によって表出され、伝達されるかを理解することが大切です。

科目の概要 情報のメディアは、古代から今日まで、その形態の進歩はあっても文字、画像・映像、音声・音響がその基本であることは変わっていません。これらのメディアによって作成・表出された情報が活用されるにはほとんどの場合、次のプロセスを経ることになります。情報の作成、保存、蓄積、発信、伝達、受信、情報の収集、整理、検索などです。したがって、情報を最大限に活用するためにはこれらのプロセスに用いられる機器の原理を理解しておくことが大切で、ねらいとなります。

学修目標 特に、近年の電子技術の進歩により、情報の多くが電子化情報すなわちデジタル情報として処理されるようになってきました。コンピュータを初めとする電子・磁気機器、光学機器については原理のみならず活用能力を修得します。情報処理担当者、図書管理担当者、情報・図書サービス担当者にとって必須要件となってきたからです。

内容

1	オリエンテーション
2	情報作成手段、機器の発達をまず概観します。
3	情報保存・蓄積媒体と機器の発達を学びます。
4	マルチメディア情報処理装置としてのコンピュータについて、その仕組みを中心に学びます。
5	情報のデジタル化としての2進数を学びます。
6	コンピュータ通信ネットワーク (LANとインターネット) を学びます。
7	電子図書館とデータベースシステム、について学びます。
8	インターネットの利用、について学びます。
9	デジタル映像機器としてのビデオカメラ、デジタルビデオカメラの機構について学びます。
10	磁気記録媒体について学びます。
11	光反射記録媒体について学びます。
12	光 - 磁気構造、光 - 分子構造、ICメモリー、などについて学びます。
13	印刷機器 (レーザープリンター、インクジェットプリンター) について学びます。
14	情報の発信、伝達、受信、通信媒体、インターネットについて学びます。
15	まとめ

評価

提出してもらうレポート (15点) を、150点満点 (15X10点満点) で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	図書館特論 (女性情報論)		
担当教員名	青木 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書課程選択科目群の図書館特論の 科目

科目の概要

氾濫する情報の中から、信頼できる情報を得るために情報リテラシーを学ぶ。さらに世の中の情報がいかに女性を固定的な視点で描き、発信しているか、ジェンダー視点で分析して要因を探る。統計資料などの読み解き方を学び現代社会の女性・男性の現状を明らかにする。女性の生き方の選択においてどのように情報を活用していくか、共に考える。

学修目標

信頼できる情報の検索・収集の方法についてについて学び、身近な図書館を活用する

新聞・雑誌・インターネットなど多様なツールで日常的に社会の現状を把握する

女性のライフステージ(就職・研究・結婚・子育て・家族・生涯学習)における支援情報を知る

毎時間、新聞記事・雑誌記事のワークシートをまとめる

内容

1	1.女性情報とは何か 女性情報ツールの紹介 科目のオリエンテーション
2	2.女性情報検索の基礎(図書館/男女共同参画センタの利用・インターネット/データベース検索)
3	2- 女性学関連 図書・参考図書の検索・利用
4	2- 新聞記事・女性雑誌・ミニコミ誌の検索と利用
5	3 男女共同参画社会とは
6	3- ジェンダー分析の実習 (女性を対象/男女共同参画関連新聞記事・雑誌記事の分析)
7	3- ジェンダー分析の実習 (インターネットサイト・映画・写真に見る女性)
8	4 統計で見る日本の女性の現状 (各種統計データベースの紹介・ジェンダー統計とは)
9	5 女性のライフステージにおける女性情報の活用
10	5- 就職活動・研究活動をエンパワーする情報
11	5- 結婚・子育て・介護・再学習を支援する情報
12	6 女性のキャリア形成
13	6- 女性の伝記・自伝を読む 歴史を切り開いた女性の資料を調べる
14	6- 女性の伝記・自伝を読む 新しい分野に挑戦する女性の資料を調べる
15	レポートの発表 まとめ

評価

3. 評価

レポート(50%) ワークシートレポート(40%) 授業への貢献(10%) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】または【テキスト】使用しない，プリント配布

【推薦書】『新編日本のフェミニズム7 表現とメディア』天野正子他編 岩波書店2 009

【参考図書】

『男女共同参画データブック 日本の女性と男性』独立行政法人国立女性教育会館 ぎょうせい 2009

『メディアリテラシーとジェンダー』諸橋泰樹 現代書館 2009

『インターネットで文献検索 2010年度版』伊藤民雄 日本図書館協会 2010

『「私」を生きる女たち 伝記で読むその生涯』楠瀬佳子 三木草子 世界思想社 2004

科目名	図書館制度・経営論		
担当教員名	西来路 秀彦、石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館学を建物に例えるなら「生涯学習」は、諸学にも人生にも土台であると言える。その土台上に「図書館制度・経営論」は必須科目として「図書館概論」「図書館資料論」などと共に、総合的な図書館像の柱となり、壁や屋根となる。有機体のように機能する図書館を理解するには、その活動への「経営」の視点が必要である。図書館制度と政策、経営資源、施設、評価調査など個別要件で探る。

科目概要

現代図書館の歴史(必要な前肢)を振り返りながら、図書館業務における職員(館長)、制度、予算、施設、町おこし等の色々な面を検討していく。配布のプリントで流れとポイントを押さえていく。個別テーマの理解が、次のステップの土台となる連続性が高いので、続けて休むとレポート、テストに対応できなくなる恐れがある。履修制度が変更されるので、履修に努力をしてほしい。

学修目標

現代の公共サービスは、財政収縮と行革の大波の中にある。非営利組織である図書館も、利用者の多様な要求を満たし、またその発達を支える社会システムであり続ける必要がある。その為に図書館の持つ諸資源をより効果的に運用し、その成果をテコに条件そのもの(行政の諸条件等)をもさらに改善することが必要だ。このため、これまでなおざりにされがちな「経営」の視点から図書館活動を考え、基礎的知識を得る。

内容

- ・社会の変化・発展に対応できたか、できなかったかの分岐の事例を跡づけ、評価していく。
- ・配布のプリントを中心に授業を進めるが、新資料の取り入れによって一部変更があり得る。
- ・授業の各回の理解が、後の展開の基礎となる。欠席が多いと課題・試験に十分対応できなくなる。

1	ガイダンス
2	図書館経営の意味と色々な図書館
3	図書館サービスの歩み(戦後)
4	図書館サービスの前線(第一線)
5	根拠法と関係法規
6	各種法規と類縁機関
7	図書館の政策・体制
8	経営と図書館協力(1)
9	経営と図書館協力(2)
10	経営管理と図書館振興
11	建築と施設(1) 計画と配置
12	建築と施設(2) 設備と空間
13	サービス計画と評価
14	街づくりと図書館経営

評価

- ・レポート・小レポート30%、筆記試験70%。60点以上合格。
- ・再試験は基本的になし。入院等による追試験は事情による。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考：高山正也[ほか]共著『図書館経営論 改訂』樹村房 2011年

科目名	図書館情報技術論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：多くの図書館では、利用者への確に情報を提供するために、資料の登録やデータ管理をはじめ、OPACシステムを伴う図書館システムを導入している。さらに、貴重書の保存・整理・公開を目的に、資料をデジタル化し、公開している図書館もある。このように、近年の図書館業務には、図書館システムや情報技術の知識が欠かせない。本科目では、図書館業務を通じた情報技術を修得したうえで、図書館情報システム等の設計仕様を考え、情報発信を行なう図書館サービスをデザインする。

科目の概要：本科目では、図書館業務で必要とされる基礎的な情報技術について、具体的事例を交えながら修得する。具体的には、先導的な図書館の情報技術の事例を踏まえたうえで、情報技術とメディア社会との関係やデータベースの構造と仕組みを概説する。さらに、図書館システムや図書館ホームページ、デジタルアーカイブの仕組みを通して、コンピュータシステム・ネットワーク(セキュリティ含)をはじめとした情報技術を取り上げる。そして、これらの情報技術を活用した情報システムの仕様書を取りまとめ、未来の図書館情報技術を考察する。

学修目標：授業時の講義内容の理解とともに、場合によっては、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館システムやデジタルアーカイブの仕組みを通して、図書館情報技術の基礎を理解すること。
- ・図書館ホームページやインターネット検索、電子資料の管理を理解すること。
- ・図書館システムやデジタルアーカイブの意義を理解し、情報技術を踏まえ仕様書を作成できること。

内容

1	オリエンテーション：図書館司書に求められる情報技術とは？
2	図書館における情報技術：各館種における先導的事例
3	情報技術とメディア：メディア論の視座から情報技術をみる
4	データベース構造と仕組み
5	図書館システムの構築(1)：コンピュータシステム、ネットワークの基礎
6	図書館システムの構築(2)：業務システムの設計、データ管理・セキュリティ
7	図書館システムの構築(3)：目録システム・OPACの設計・管理
8	図書館ホームページの意義と役割
9	インターネット検索の基礎：検索エンジンの仕組みを含む
10	電子資料(データベース、電子ジャーナル、電子書籍)の流通・管理・方法
11	デジタルアーカイブの方法と実際
12	情報システム(図書館システム・デジタルアーカイブ)の仕様書作成(1)
13	情報システム(図書館システム・デジタルアーカイブ)の仕様書作成(2)
14	未来の図書館情報技術
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・水越伸『21世紀メディア論』放送大学教育振興会，2011
- ・朝日崇『実践アーカイブ・マネジメント』出版文化社，2011

科目名	図書館情報資源概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな資料が選択・収集・整理・保存(管理)され、各館独自のコレクションが形成され、利用者に情報が提供されている。本科目では、図書館コレクションを形成しているさまざまな図書館情報資料の種類、特質、流通等を広く概説し、図書館が情報資源を選択・収集・整理・保存(管理)する意義を考察し、利用者への提供方法をデザインする。

科目の概要

図書館には、どのような資料が収集され、どのような観点でコレクションが形成されているのか。そのためにも、図書館情報資源の特質を知り、図書館の館種や利用者のニーズも踏まえる必要がある。本科目では、図書館業務に必要な図書館情報資源の種類と特質、電子資料やネットワーク情報資源の動向を概説する。そして、コレクション形成を具体的に考え、利用者へ提供する方法をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館資料の種類や特徴、電子資料やネットワーク情報資源の動向を理解し、司書が実際に図書館資料をどのように選択・収集しているのか、利用者への効果的な提供方法を理解する。
- ・ 各図書館のコレクションを評価し、学問分野別(人文・科学技術等)に情報資源の特性を理解する。

内容

1	オリエンテーション, 図書館情報資源の意義
2	図書館資料とは何か, 図書館資料の歴史
3	図書館資料の種類と特質(1): 印刷資料・非印刷資料
4	図書館資料の種類と特質(2): 地域資料・灰色文献 他
5	電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特質
6	出版流通システム, 書店と図書館業務の関係
7	自然科学・科学技術分野の情報資源の特性
8	人文・社会科学分野の情報資源の特性
9	知的自由と図書館資料
10	コレクション形成と意義
11	資料の選択と収集方針
12	図書館司書の仕事(1): 資料の選択・収集の実際
13	図書館司書の仕事(2): 資料の管理(装備・補修)・保存・展示・排架
14	コレクション形成の評価
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

・馬場俊明『図書館資料論』日本図書館協会，2008（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 7）

【参考書】

・三浦逸雄，根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣，1993（講座図書館の理論と実際， 2）

・日本図書館協会図書館の自由委員会編『「図書館の自由に関する宣言1979年改訂」解説』第2版，日本図書館協会，2004

・安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』勁草書房，2006（図書館の現場， 5）

その他，授業中に提示する。

科目名	情報資源組織論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解する。それにより図書館情報資源の組織化に関する理論と技術を理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料及びネットワーク情報資源により構成される図書館情報資源の組織化について、その理論と技術を解説する。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などの角度から解説する。

内容

1	情報資源組織化の意義と理論
2	書誌コントロールと標準化
3	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (1)
4	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (2)
5	主題分析の意義と考え方
6	主題分析と分類法 (1)
7	主題分析と分類法 (2)
8	主題分析と索引法 (1)
9	主題分析と索引法 (2)
10	書誌情報の作成と流通
11	書誌情報の提供について
12	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13	多様な情報資源の組織化 (1)
14	多様な情報資源の組織化 (2)
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 田窪直規編『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ9、樹村房)

科目名	図書館基礎特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目では、図書館の理念と20年後のありたい姿（ビジョン）を構築し、図書館の未来像を具体的に考察する。さらに、図書館司書科目における基礎科目・図書館サービスに関する科目等を幅広く踏まえながら、図書館のビジョンを実現するための戦術（施策）を構築する。

科目の概要：本科目では、企業や学校法人、海外の図書館の事例を踏まえながら、理念やビジョンの必要性、意義を概説する。同時に、戦後日本の公立図書館史における図書館づくり住民運動、移動図書館、PTA母親文庫を事例に図書館の理念やビジョンを概説するとともに、現在勤務している女性司書等のキャリアパスについても受講生とともに考察する。こうした内容を踏まえながら、館種や地域を絞り、図書館の理念・ビジョンとそれを実現するための施策を構築し、発表と評価を行なう。

学修目標：本科目は講義とともに、一部演習形式で行なう。図書館概論をはじめ、図書館制度・経営論、図書館サービス概説、情報サービス論、児童サービス論等を踏まえ、図書館のあるべき姿や実現するための方法を具体的に構築し、発表すること。

- ・企業や学校法人等の事例を踏まえ、理念やビジョンの必要性、意義を理解すること。
- ・戦後公立図書館史のさまざまな活動における図書館の理念の重要性を理解すること。
- ・環境変化や未来社会（人口、産業、技術等）を踏まえ、図書館の理念やビジョンを構築すること。
- ・ビジョンを実現するための施策を構築し、受講生同士で発表すること。

内容

1	オリエンテーション：図書館の理念・ミッション・ビジョンを考える
2	理念・ビジョンの意義：企業、法人、図書館の事例、司書のキャリア形成等
3	図書館づくり住民運動の概念：戦後の移動図書館活動、長野県PTA母親文庫を含む
4	図書館の理念・ビジョンを考える：図書館の普遍的な役割
5	先進的な図書館・情報サービスの事例：公立・大学図書館の事例
6	ビジョンを実現するための図書館戦略の構築
7	実現するための戦術・施策の構築
8	まとめ：図書館の理念・ビジョンの発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・ジェームズ・C・コリンズ『ビジョナリーカンパニー』日経BP，1995
 - ・遠藤功『企業経営入門』日本経済新聞社，2005
 - ・足立光正『「企業理念」開発プロジェクト』ダイヤモンド社，2004
 - ・小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史2』日本図書館協会，2006（JLA図書館実践シリーズ，5）
- その他，授業中に提示する。

科目名	図書・図書館史		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

司書課程を学び始める学生に、人類の叡智はどのように表現され蓄積されてきたかを学ぶことで、人類の素晴らしさを感じ取ってもらいたい。

図書館は、メディアの進歩と社会との関わりのなかで発展し、形態を変えてきた。現在、図書館は大きな変革期にあるが、原点に立ち返り歴史を学ぶことで、現代社会において図書館が果たすべき機能と役割についても考えるきっかけとする。

- ・集中講義なので、各時間ごとに学んだ内容をまとめ提出することで、学習内容の確認を行う。
- ・一気に進むので、予め教科書を一読しておくこと。

内容

導入、文字及び記録媒体・印刷技術の歴史

古代の図書館：図書館の起源、アレクサンドリア図書館、古代ローマの図書館

中世の図書館：修道院図書館、大学図書館

近世の図書館（15～16世紀）：グーテンベルクの活版印刷術、ルネサンス時代の図書館

近世の図書館（17～18世紀）：啓蒙の時代、図書館思想、大衆読書の時代

近代の図書館（19世紀）：貸本屋・会員制図書館、公共図書館、国立図書館、各館種・機能の確立

20世紀の図書館：文献生産量の増大化、国内・国際図書館協力、情報化社会の到来、電子図書館

～ 日本の図書館の歴史：古代の図書館～現代の図書館

まとめ （時間の都合がつけば印刷の歴史を見学）

評価

学習内容のまとめ（提出物）を3割、試験を7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

寺田光孝編『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ 12）樹村房

プリント（授業のレジュメ）を毎回配布する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

公共図書館における児童サービスは、多くの場合子どもが初めて受ける図書館サービスであり、成人を対象にしたサービスとは異なる固有の使命と方法をもっている。その活動は児童の成長発達に役立ち、彼らの精神生活を豊かにする。それは、将来の良き図書館利用者を育成する上でも重要な意味をもっている。また、中学・高校の世代を中心とする、いわゆるヤングアダルトの読書離れは著しく、危機的な状況に至っている。これらヤングアダルトに対する図書館サービスは、児童サービスに比べると、まだまだ未発達であり、児童と成人の中間にあって置き去りにされているきらいがある。

本講では児童サービス、およびヤングアダルトサービスのもつ重要性について認識を深め、固有の活動内容、方法についての知識と技術を体得することを目指す。

学修目標

- ・ 児童（乳幼児からヤングアダルトまで）サービスの成立過程及びその意義・役割・特性を理解する。
- ・ 児童資料の種類とその特性を理解する。
- ・ 児童図書館の運営・施設・設備のあり方を学ぶ。
- ・ 児童サービスの実務・技術・方法を体得する。
- ・ 乳幼児サービス・ヤングアダルトサービスの意義と具体的な展開方法を体得する。
- ・ 児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題を考える。

内容

1	児童サービスの意義
2	児童図書館員の役割
3	児童サービスの成立と変遷
4	児童サービスの現在
5	児童資料の種類と特性
6	児童資料の収集と管理
7	児童図書館の運営
8	児童図書館施設・設備
9	児童サービスの内容
10	児童サービスの実務
11	児童サービスの技術と方法
12	乳幼児サービスの意義と展開（ブックスタートを含む）
13	ヤングアダルトサービスの意義と展開
14	各種諸機関（地域の他の図書館・文庫・学校図書館等）との連携・協力のあり方
15	児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題

評価

授業の進行に応じて提出を求める小レポート40%、授業への参加姿勢とその態度20%、課題「理想の児童図書館」制作40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目のねらい

図書館司書資格を取得したい学生に向けての必修科目である。公共図書館に不可欠なサービスとして位置づいている児童図書館サービスについて解説する。

児童図書館サービスとは、児童奉仕とも呼ばれ、子どもを対象として、児童図書館の目的を達成する為に行われる仕事全般を指している。子どもの利用者に向かって直接行うサービスのみでなく、管理運営、施設の環境整備、資料の選択収集、さまざまなサービスの企画・遂行、館外との協力・連携、さらにこれらサービスの広報活動までが含まれる。以上のような仕事を理解することをねらいとする。

科目の概要・到達目標

子どもへの図書サービスの特質性、重要性を、子どもの発達ならびに学習の見地から解説する。乳幼児に向けたブック・スタートから、思春期のヤング・アダルトに向けたサービスまで、児童資料を紹介しながら具体的に言及していく。また、子どもの年齢や興味関心による児童資料の提供の仕方を、紙芝居、読み語り、ブック・トークなどの演習を交えて指導する。学校教育場面のみならず家庭や社会生活場面での子どもと本との関わり合い方を視野に入れて、読書による人間教育について深く洞察することができる専門性を伝達したい。

内容

授業計画

- 第1回 子どもにとって読書とは何か
- 第2回 子どもの認知発達と読書能力
- 第3回 子どもの読書活動の歴史 (児童図書館の歴史)
- 第4回 児童図書館の見学
- 第5回 児童資料の種類と選書規準
- 第6回 紙芝居の選び方について
- 第7回 紙芝居の演じ方
- 第8回 絵本の選書について
- 第9回 絵本の読み方
- 第10回 (狭義の) 児童文学の選書について
- 第11回 読み語り、ブック・トーク、ストーリー・テリングの仕方
- 第12回 ヤング・アダルト文学の選書について
- 第13回 学習支援としての児童図書館サービス
- 第14回 児童図書館サービスの意義と実際の活動 (地域・家庭・学校との連携・協力など)
- 第15回 児童図書館員の専門性

評価

授業への取り組み方 20%、レポート成績 80% で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『改訂 児童サービス論』 中多泰子編 樹村房